

## 中央アフリカ共和国の出生児体重の軽量化とHIVの影響

徳永 瑞子 門司 和彦 大石 和代 中尾 優子 山崎 真紀子

長崎大学 医学部 保健学科

中央アフリカ共和国の首都Bangui市にある国立B産院の分娩台帳に記載されている1998年から2003年までの出産6,904件(双子除外)を分析した。男児数3,539件、女児数3,365件が分析対象である。

産婦の平均年齢は、23.2歳(12歳から48歳)、初産の平均年齢は、17.5歳であった。6年間のMBWは、男児2920 g、女児2827 gであった。各年の全体の平均出生体重(MBW)は、1998年2934 g、1999年2885 g、2000年2856 g、2001年2848 g、2002年2827 g、2003年2844 gであり、有意な減少を示した。出産回数別出産数は、初産は2139件(30.6%)、2回目の出産件数は1571件(22.5%)で、初産婦のMBWは2645 g、2回目は2891 gで246 g多い。2500 g未満の低出生児(LBW)の割合は、初産で28.1%、2回目14.7%、3回目12.4%、4回目9.4%であった。

出産年齢別によるMBWは、14歳未満2558 g、15歳2559 g、初産平均年齢の18.2歳は2684 gで、年齢と共にMBWは高くなり34歳の3099 gが最も高い。

**感染妊婦の分析**

B産院で2001年から2003年までに3995名の妊婦がHIV検査を受け、539名がHIV陽性であった(13.5%)。うち101の出産があり(男児56名、女児45名)、MBWは2763 g、男児のMBWは2848 g、女児は2597 gであった。LBWの割合は、全体で31.5%、初産は28.0%であった。年齢、出産回数を補正してもHIV感染妊婦から生まれた児のMBWは非感染者に比べて低かった。

**まとめ**

1. B産院における1998年から6年間のBMWは、経年ごとに減少傾向にある。BMWは性別・母親の年齢・出産回数によって有意差が見られた( $P < 0.001$ )。母親の年齢と出産回数を補正しても男女ともにBMWはこの6年間で減少していた。
2. HIV感染妊婦が出産した101件の出生児を全体のデータと比較するとMBWは、HIV感染者が出産した児が小さい。LBWの割合も高い。
3. 妊婦のHIV感染が胎児の出生体重に影響を与えていた。しかし、その影響は全体を説明するほどではなく、6年間の出生体重の減少にはHIV感染に加えて未知の別の要因があると考えられた。

---

Increasing number of HIV-positive mothers only partly explained the recent decline of birth weight in Republic of Central Africa

MIZUKO TOKUNAGA

School of Health Sciences, Nagasaki University, Nagasaki, Japan